誠晴會だより

Medical corporation SEISEIKAI
Public information magazine

12月
冬号
Dec. 2022
No.24



■ふきあげ納富病院理念■

1. 温かみのある誠実な医療提供を通じて、地域医療の推進に貢献いたします。
2. 泌尿器疾患、腎臓疾患に関する専門性をより追求します。

■ふるさとの森理念■

1. 温かみのある誠実な看護と介護を通じて、地域介護の推進に貢献し、一日も早い在宅復帰を目指します。
2. ご利用者とそのご家族、私達とのチーム全体による目意識を持ったリハビリテーションを
   中心とする残存機能維持、向上を目的とする医療ケアを目指します。
3. ご利用者の人間らしさと豊かな人生に寄与し、新しい生き方のサポートを致します。
4. 生きがいのある生活空間と生涯教育の場を提供します。

肥前鹿島干潟 SDGs 推進パートナー活動
『潟を踏もうプロジェクト』
参加：誠晴會/ブレイズ株式社(わいわいクラブ)

ふきあげ納富病院：佐賀県鹿島市大字高津原 1867-1　介護老人保健施設ふるさとの森：佐賀県藤津郡太良町大字糸岐 6797 番地 1

SEISEIKAI INFORMATION MAGAZINE

12月　冬号
2022.No.24

ふきあげ納富病院 竣工写真

撮影：小川重雄





⬅【透析室の天井】
木造ブレースの格子天井が特徴的で、ベットから鹿島の風景を一望でき有明海まで見渡すことができます。
多くの時間をここで過ごす透析患者さんに、”ここち いい”時間を提供しております。



誠晴會 新人研修2022
ふきあげ納富病院敷地内にて”ヨガ”、”ブッシュクラフト”などが行われました。



留学生(介護老健保険施設ふるさとの森)
みかん狩り🍊🍊



光と色と風のフェスティバル
毎年恒例となったイベントが開催。
今年も多くのの方々に来場してもらいました。



抱え上げない介護 講習
利用者様に寄り添った介護が提供できるようにスタッフの技術向上を目指す。

目次

01 目次

02 朝長医院理事長ご寄稿

03 理事長寄稿

05 肥前鹿島干潟SDGs推進パートナー
『ガタぴか』清掃活動

07 ふるさとの森 認知症ケア通信

09 高齢者疑似体験学習(ふるさとの森)

11 誠晴會 新人研修2022

13 イベント報告
光と色と風のフェスティバル2022

15 イベントでの取り組み

17 イベント報告
かしま・ふきあげサッカーフェスティバル

19 わいわいクラブ＆

21 稲盛和夫のメッセージ

「それでいいのよ」母へ

朝長医院理事長 朝長弘道

母は明治四十四年(一九一一年)八月生まれ、九十四歳。数年前から物忘れが目立ち、ここ一、二年は特にひどい。悲しいことに我が子の名前も思い出せなくなってしまった。しかし、お話の相手をしていると顔つきは穏やかだ。

昭和四年(一九二九年)「(結婚を)決めてきたぞ」との父の一言で、娘の生きかたは決められた。四十(歳)前の母と、長女である十八(歳)の娘は離れ難く、手を取りあって泣いたそうだ。

相手は田舎の、大家族の開業医のひとり息子だそうだった。内、外とも気遣いの多い生活だったろうが、無我夢中のうちに十数年が過ぎた。五人の子供が生まれた(三男二女)。文学や詩歌に興味はあったが、それに打ちこむゆとりはなかった。

昭和十二年に始まった日中戦争に続き、十六年にさらに大きい太平洋戦争へと日本は突入した。風雲急を告げる昭和十九年の秋、夫は軍医として召集された。翌二十年(一九四五年)八月十五日、日本は敗れた。夫はフィリピンの戦場に赴いたことはわかっていたが、その後は全く消息不明であった。戦いが終わって各地の戦場から兵たちが故国に帰還しはじめた。フィリピンからの引き上げ船が広島県大竹港に着くとの新聞記事を見る度に今日か明日かと待ったものだ。

母は思いを歌に詠んだ。

近づきし　軍靴は又も　空耳か
国敗れてただ　街に待ちたり

秋も深まったころ、戦死の公報が来た。運よく帰国できた軍医団の証言に基づくもので、遺骨や所持品等は何も戻らなかった。

渡されし　白木の箱の　手に軽く
泣いてはおれぬ　眉を上げたり

(注　白木の箱：遺骨を納める箱)

夜は夜に　針持ち更かす　母われに
子らそれぞれの　夢育てぬし

それから十数年。末娘を除いて上の四人は学校を終え、仕事を得、そして結婚した。母は生まれて初めて、自分の意思によって生きかたを選んだ。朝長家を出て、再婚した。周辺にかなりの波紋を起こしての選択ながら、新たな世界が開けた。しかしそれも束の間、伴侶の早過ぎた死によってたった五年で又独り身となった。

マンゴーの　木陰に絶えたる　軍靴ぞと
聞きてより三十年　すでに茫々

独り暮らしの母のもとに実家の母が移り住んだ。母親の膝下を離れて四十余年、人生の苦楽をしたたか味わったあとの二人だけの心安らかな日々が続いた。

正信偈　詠しぬる母の　細き声
流さぬ程に　うちわの風を

折しも祖母の米寿を迎え、その子供たちが集まった。

米寿迎ふ　母に仕上げし　春着なり
いそいそといま　躾をはづす

母娘の静かな生活も祖母の急な死によって一年半で終わった。正信偈を詠しながらひそかに消えた。

老二人　立つる埃も　はかなきに
逝かせて独りの　部屋を掃く音

昭和五十二年、武雄市田園節子様のおすすめにより、又亡き母との約束もあって歌集「瀞」を出版した。自宅の窓の下を流れる川の、深みによどむ水の模様に己の来し方を重ね合わせての題名であった。

昭和五十六年(一九八一年)母は古希を迎え、子供たちだけでささやかなお祝いをした。母は自作の歌を布地に染めあげ、皆に配った。

いつしかに　古希とはなれり　思ほへば
流るるいのち　子にも孫にも

昭和五十九年(一九八四年)初めて日本を離れ、ヨーロッパ(母は欧州と言う)を訪れた。母は七十三歳の誕生日をウィーンで迎え、同行の人々にも祝ってもらった。帰りは南回りでフィリピンのマニラに一泊した。このルソン島の山中で夫は(父は)戦死した。マニラ湾の見えるホテルの一室で冥福を祈った。その時、十三歳で父と別れた私も、すでに、死んだ父の齢を遥かに超えていた。

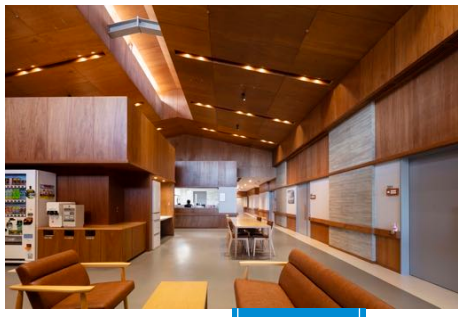
少年たりし子が妻子らと　並び立ち
黙祷永し　父のつひのちに　日本より

日本より　持ち来し香の　たゆたひに
四十年　永しみじかし









『院長の窓』

Dec 2022
～vol.4～

「内田樹先生が考えるインフォームドコンセントを紹介」

医療というのは、病気と患者と医師という三者が参加するある種の「物語」だと僕は思います。

そして、物語にはいろいろなパターンがある。

例えば、病気を患者の悪しき生活習慣がもたらした帰結だと考える医師がいます。

そういう医師から見ると、患者その人こそが病気の原因に見える。だから、「病気になったのはお前のせいだ。自己責任だ」と患者を責め立てます。患者はそう言われても反論できないので、しょんぼりして、生きる意欲を失う。病院に行くとまた叱られると思うと、病院へ通うのが嫌になり、薬が切れてもそのままにして、やがて手が付けられない状態になる・・・。

一方、病気を外宇宙から到来した「エ



納富貴嗣 理事長

●ふきあげ納富病院
担当：泌尿器科

福岡大学医学部卒業後、H5年に福岡大学筑紫病院泌尿器科に入局。その後、佐賀医科大学病院泌尿器科、福岡大学筑紫病院に勤め、H11年にアメリカ留学のため渡米、H13年に帰国し福岡大学病院泌尿器科を経てH17年に誠晴會納富病院に勤務され現在に至る。

「温かみのある医療提供」の理念のもと来院される患者さんが過ごしやすい環境づくりであったり、サービスの充実、スタッフの働き方改革などを行う。医療だけに留まらず、スポーツチーム応援、地域イベントといった取り組みを行い地域の活性化、子供たちの教育にも尽力している。

自身もサッカー経験者ということで、公認スポーツ指導者資格を取得し、スポーツ医科学の知識を活かして、スポーツの本質的な楽しさや素晴らしさを伝える。

イリアン」のようなものに見立てる医師もいます。この「ワルモノ」を相手に、患者と医師がチームを組んで戦うという勧善懲悪ストーリーを採用するのです。この場合は、患者と医師は仲間で、ともに「外部から到来した悪い病気」と戦うという話になっているので、患者の自責の念や心理的負荷は大いに軽減しますし、患者は医師の医療行為にできるだけ協力しようとする。

まれに、病気とはある種の心身状態の「偏り」に過ぎないのだから、それに合わせて自分の生活や体の使い方を変えればよいという考え方をする人(患者)もいます。「病と戦う」のではなく、「病と共に生きる」のだという独特の医療哲学です。これもまた一つの「物語」ですけれど、僕の知る限りでは、このような哲学的なスキームで自分の病気を記述できる人は総じて健康で、長寿です。

どの物語を選ぶかは、個人の自由だと僕は思います。どのような物語が結果的に患者の生活の質を最も高めることができるのか。それは医師が判断するしかない。

インフォームド・コンセントも「人間とはどういうものか」についての一つの物語から導き出されたものです（アメリカはすべてを自己決定し、誰にも責任を負わせないself made manを人間の理想に掲げる社会ですから、「アメリカ向きの物語」を選ぶの（「その治療方針を決めたのは私だ」という自尊感情がもたらす全能感を利用すること）は医師として適切な判断だと思います）。

ただ、世界中どこでもそれが適用できるわけではない。それが効く患者もいるし、あまり効かない患者もいるし、そのせいでかえって悪くなる患者もいる。だから、こういうのは、ケース・バイ・ケースで対応すればいいんじゃないですかと僕はお答えしました。

納富談：内田先生のおっしゃる通り、その患者、そのご家族に沿い、説明内容が変わることもやぶさかではないと認識している先生が、上手なインフォームドコンセントを実施できる先生なのでしょうね。ただただ、「修行」が必要です。

※インフォームド・コンセント
医療行為を受ける前に、医師および看護師から医療行為について、わかりやすく十分な説明を受け、それに対して患者さんは疑問があれば解消し、内容について十分納得した上で、その医療行為に同意することです。



Seiseikai

肥前鹿島干潟SDGs推進パートナー活動

2022.10.30　肥前鹿島干潟　見晴らし台









"ガタピカ" 鹿島市で150人、仮装し清掃活動

拾ったゴミの量を競うイベントとしてラムサール条約湿地に登録されている鹿島市の肥前鹿島干潟で１０月３０日、ごみ拾いイベント「ガタピカ」が開かれました。市民ら１５０人が参加し、ハロウィーンに合わせ、仮装して清掃活動を行い誠晴會からもイベントに参加をし汗を流しました。

開催日がハロウィンということもあり仮装での参加もありと言うことで皆さんそれぞれの仮装でより楽しみながらゴミ拾いを行なっていました。干潟で空き缶やペットボトルなどの全体で集まったごみの量の合計１６５・７キロものゴミを拾い集めました。

誠晴會は入賞することはできなかったが、参加賞としてラムサール米をもらいました。ムツゴロウの目の形についてなどの問題に答える〇×ゲームもあった。ボランティア活動というよりイベントに近く楽しく行えることができました。地道な清掃活動ですができることをコツコツして鹿島市の為に出来る事を誠晴會としても行なっていきたいと思います。

肥前鹿島干潟SDGs推進パートナー

医療法人 誠晴會
ふきあげ納富病院 TEL:0954-63-1117
FURUSATO no MORI. TEL:0954-67-9002

ラムサール条約湿地 肥前鹿島干潟 Ramsar Site hizenkashima-higata

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ラムサール米【夢しずく】

　ラムサール登録湿地『肥前鹿島干潟』の海岸清掃で刈られたヨシでできた「むつごろうたい肥」を使用し、農薬や化学肥料を使用せず作られた安全・安心で、更に環境に配慮してこだわりぬいて作った美味しいお米です。
　このお米の消費をすることで、有明海の環境保全にもつながります。

　とっても甘くておいしいお米です。
このお米を買っていただくと、売上金の一部は、有明海を守る活動の資金となります。

●ラムサール米.... 2kg 1,000円

【問い合わせ先】
鹿島市ラムサール条約推進協議会
(事務局：鹿島市ラムサール条約推進室)
0954-63-3416





肥前鹿島干潟

　肥前鹿島干潟は、佐賀県南部の有明海西岸に位置し、塩田川、鹿島川の河口と海岸に発達する干潟です。

　干潟にはムツゴロウやワラスボなど有明海特有の生き物が生息しています。また、秋から春にかけてズグロカモメやチュウシャクシギ等のシギ・チドリ類が渡来し、東アジア地域における重要な渡りの中継地となっています。
　このような有明海の恵みを受け、共に生きる中で、ムツ掛け漁などの独特の漁業が発達し、伝統漁として受け継がれてきました。

　その他にも、干潟体験のように直接干潟に入って豊かな自然を楽しむなど、有明海の恵みと私たちの生活は深くかかわり合っています。

ラムサール条約推進室HPより

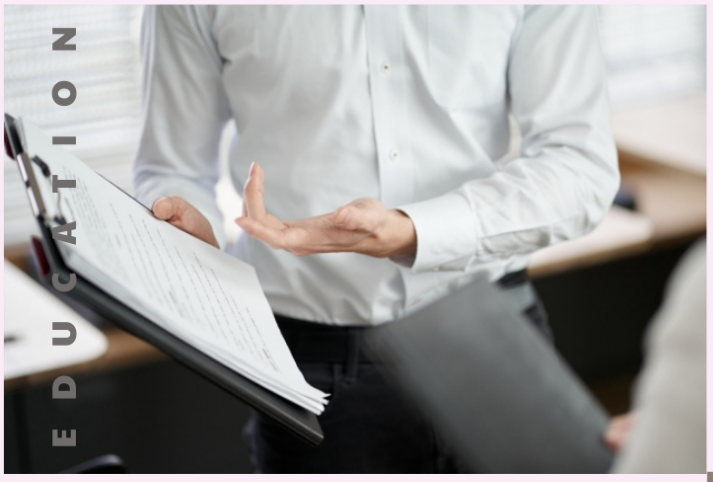
SMILE CERE PRESS vol. 1

FURUSATO NO MORI.

ふるさとの森　認知症ケア通信

TEAM 認知症ケア 3 グループの活動

認知症になっても誰もが笑顔で過ごせる施設へ



教育グループ

ミッション

利用者様に安心してお過ごしいただくための
プロフェッショナルとしての知識を広めます

活動

施設内試験の合格者にライセンスを発行する
認知症ケア 施設内ライセンス制の確立に向けて
動いてます。

情報発信グループ

ミッション

施設内・外に向けて必要な情報を発信し
認知症ケアで選ばれる施設を目指します。

活動

施設の指針である認知症ケアポリシーの浸透に
向けて動いています。併せてケアポリシーの実現
のために、具体的な行動プロミスを検討中です。





チームワーク促進グループ

ミッション

スタッフ間の連携だけでなく、ご家族様・利用者様
の間のつながりを作ります。

活動

笑顔を引き出せる声かけをスタッフ間で共有する
褒めシートを作成。より笑顔につながるシート
にするために工夫を重ねています。

https://furusatonomori1998.com/

ふるさとの森　認知症ケアポリシー

- 私たちのケアは利用者の**尊厳**を守ることから始まります
- 私たちのケアは利用者の**思い**を決して軽んじません
- 私たちのケアは利用者が**歩まれた人生**に敬意を払います
- 私たちのケアは利用者とその家族に**寄り添います**
- 私たちは認知症ケアの**プロフェッショナル**として行動します



FURUSATO NO MORI.
Facility to connect areas

OUR PRINCIPLES

私 た ち の 行 動 指 針

私たちは認知症ケアポリシーに基づき
あらゆる努力を続けます

https://furusatonomori1998.com/



～地域貢献活動～

～ Initiatives of this facility ～

地元の小学校で 高齢者 疑似体験学習 の授業を行いました！

【高齢者擬似体験学習】

多良小学校と大浦小学校の生徒さんを対象に、高齢者疑似体験の授業をさせていただきました。ふるさとの森からは、施設ケアマネと理学療法士、支援相談員が参加しました。

高齢者疑似体験では４つの体験をしてもらいました。

・手袋やゴーグルを使った感覚、視覚体験。
・重りを入れたベストを着用し杖を使って階段を歩く感覚を体験。
・車イスを使っての移動や乗降の介助体験。
・足に重りを付けシルバーカーを押す体験。

子供たちは、初めて触るゴーグルや手袋を付けて「おじいちゃんって大変なんだね。見えないよー。手も上手く動かない」と話し、自分達には無い「不自由さ」という感覚を味わいながら高齢者の方々への理解を深めました。

最後に、子供たちとの質疑応答の機会があり、その会話の中で生徒さんから、「なぜ、この介護という仕事をしようと思いましたか？」という核心を付く質問をされ、ドキッとする場面もありましたが、「私は人の役に立ちたいと思い、この職につきました。」と回答し、改めて自分の職業について考える良い機会となりました。

子どもたちにも、身近な高齢者について、少しでも理解を深めてもらえたら嬉しいです。

次の開催が楽しみです。



FURUSATO
NO
MORI

#福祉の仕事
#出張講座
#介護体験



①生徒さんと、質疑応答での交流。
②実際に重りのベストを着用しての階段の登り降りを実際に体験。
③手袋やゴーグルを使った高齢者の手の感覚と視覚体験。
④車イスを使っての移動、乗り降りの介助体験。
⑤重りを装着し、シルバーカーを使用しての歩行体験。









FURUSATONOMORI.
地域を繋ぐ施設へ
～Facility to connect areas～

介護老人保健施設 ふるさとの森
〒849-1603
佐賀県藤津郡太良町大字糸岐6797番地1

HP

SNS・ホームページもご覧ください!!
フォロー&いいね　よろしくお願いします

2022年度　誠晴會新人研修会

























SEISEIKAI
Medical corporation

2022年度　誠晴會新人研修会

実施：令和4年　10月21日
場所：ふきあげ納富病院(わいわいクラブ&)
講師：橋口ひとみ【One Love Earth】
　　高橋洋子【ヨガセラピスト】
参加：18名

～染織～



～ブッシュクラフト～



～BBQ(昼食)～



～ヨガ～



～瞑想～



光と色と風のフェスティバル

2022.11.5~6 in ふきあげ納富病院(ブリューコート)



①


②


③

【秋の恒例行事】

毎年秋の恒例行事となった「光と色と風のフェスティバル」は、天気にも恵まれ晴天のなか多くの方々に来場してもらい無事に開催することが出来ました。

この「光と色と風のフェスティバル」は二〇一六年から嬉野市みゆき公園で、サッカー大会のみでの開催でしたが、二〇一八年より現在の場所で、楽しみながら健康度アップに資するべく「健康」と「美」をテーマに、食事・雑貨・衣類など様々な分野で活動している、地元のお店を経営されてる方々と協力してマルシェエリア・ワークショップエリアを作り、年々イベント自体の規模を拡大して行なってきました。そんなイベントも五回目の開催となり開催当初に比べると、出店数・来場数共に増え続けて関係者の努力によりイベント自体の知名度・規模も年々大きくすることができております。

【病院施設が日常にあること】

年に数回、病院の敷地内でイベントを開催しているのには複数の目的があり大まかに言えば下記の三つがあげられます。

①地域への定着
②健康意識の増進
③地域振興

「病院」という場所は病気や怪我をしたときにくる場所というネガティブな印象があり







①イベント会場　②病院敷地内を使って出店　③出店された店舗で絵付けを楽しむ子供たち　④ことじ保育園園児による演奏会　⑤橋口先生によるヨガ教室　⑥(株)鹿島スズキプラザ21の電気自転車

あまり、人から好かれる場所ではないと思います。

しかし、当院はそういったイメージを払拭したいと考えて様々な工夫をしてきました。地域の方々が気持ちよく散歩できる景観にしたり、診療が休みの日曜日にイベントを開催するなど、人を呼び込む努力をしてきました。そうすることで地域の方や患者さん達の意識に「病気になったからくる場所」から「日頃からくる場所」という意識になることでネガティブな印象が少なくなり、多くの患者さんが来院してくれることを考えております。

それに付随して、イベントや教室を開くことで地域の振興につながることを目的に行なっております。

【持続可能な開発目標】

今年は新たに『SDGs』と言うテーマを加えてイベントを行いました。『SDGs』をテーマに加えた目的は、イベントを通して住み続けられるまちづくりをし、地元の良さを知り地域に愛着を持ち、人と人が繋がり様々な場所から鹿島市に足を運んでもらうことを目的としました。企画に先立ち主催であるブレイズ株式会社は、有明海、肥前鹿島干潟の環境保全活動を行なっている鹿島市ラムサール条約推進室と連携協定を結び当イベントへのご協力をしていただきました。その他にも、当院をはじめ多くの企業様がイベントの趣旨に賛同していただきました。具体的な内容としては、『SDGs』の17の開発目標の、①貧困をなくそう、②すべての人に健康と福祉を、③質の高い教育をみんなに、④住み続けられるまちづくり、上記の4つの目標に大人から子供までが楽しく取り組める内容で行い各エリアでの特色を活かしながら取り組みました。

社会全体の課題を解決するために、わたしたちが個人でもできることはたくさんあります。SDGsを意識した暮らしは、特別なことではありません。ごみを減らす、エコラベルの商品を選ぶ、お互いの違いを認めるなど、日々の暮らしで少し意識することが大切ですので、引き続き活動を続け取り組みを広げていきたいと思っております。

肥前鹿島干潟SDGs推進パートナー

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

Blaze
ブレイズ株式会社

ラムサール条約湿地 肥前鹿島干潟 Ramsar Site hizenkashima-higata
ラムサール条約推進室

光と色と風のフェスティバル

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





【光と色と風のフェスティバル】

イベントを通して住み続けられるまちづくりを目標とし、地元の良さを知り地域に愛着を持ち、楽しみながら健康度アップに資するべく「健康」と「美」をテーマにあげて、食事・雑貨・衣類など様々な分野で活動している地元の方々と繋がりを作り協力することを目的として開催しております。

【会場：ふきあげ納富病院】



【出店者の方々との集合写真】



【園児による発表会】





【フェアトレード商品の取り扱い】

『光と色と風のフェスティバル』では、イベントで使用・提供するものをなるべく、フェアトレードのものを使ったり、環境に配慮したものを使用しております。

【フェアトレードマーク】

国際フェアトレード認証ラベルが付いた製品は、社会的、環境的、経済的基準について定めた国際フェアトレード基準を満たしています。

フェアトレード製品を購入することは、小規模生産者と労働者の生活とコミュニティを改善することにつながります。

【café&bar GLAD】

佐賀県鹿島市の肥前浜宿「酒蔵通り」に店舗がある＃GLAD さんは、主にフェアトレードマークの入っている商品を取り扱ってコーヒーを提供していただいております。

香り高いコーヒー豆で商品のクオリティーも高く、種類豊富な品揃えで購入する事でフェアトレードに賛同し貢献することができます。

【サッカーボール】

本イベント内で行われている、サッカー大会ではフェアトレードマークの入っているサッカーボールを使用し、フェアトレードに賛同してその考えを子供達に伝えております。

FAIRTRADE





【鹿島市 建設環境部 ラムサール条約推進室】

干潟の大切さや有用海の環境問題の現状を理解し、地域の環境をより良くするために行動できる子ども・人材を育成するための活動・支援を実施。イベント内では環境問題における内容でクイズラリーを行い楽しく学ぶ機会を企画してもらいました。

【環境問題に関してのクイズ】

ラムサール条約推進室様の企画で、会場全体を使ったクイズラリーを行い、現在の環境問題について考える。



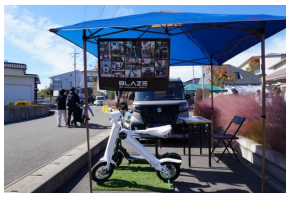
【イベントへの賛同企業】

『肥前鹿島干潟SDGs推進パートナー』の企業を中心16社の企業様に賛同、協賛していただきました。



【電気自転車試乗会】

(株)スズキプラザ21様の出店で電気自転車"BLAZ"の試乗会が行われ皆さん楽しく乗られていました。



【グリーンスローモビリティ】

電気自動車、通称"グリスロ"を再耕庵タクシー様による協賛で、蟻尾山公園とのシャトルバス運行をしていただきました。



【ブレイズフェスティバル】

U-9の子供たちを対象にサッカー大会を行いスポーツを通して、笑顔や健康になり、多くの学びや繋がりを得続けることができる環境を提供する。

【サッカー大会】

スポーツへの興味・関心を高め、成長と向上心の高揚を図るとともに、低学年年代では実践場が少ない為、各チーム相互の交流と親睦を深める場になって欲しいと願っています。

【栄養セミナー】

(株)明治様による、栄養セミナーを開催し、大会へ参加してくれた保護者様・高校生に向けた講義を行なっていただきました。

【ヨガ教室】

子供から大人まで、参加してもらい日頃から手軽にできるストレッチ・運動をしていただきました。
(講師：橋口ひとみ 先生)







【リペロッタ運動】

使わなくなったサッカー用品を会場で集め、必要としている方々に届ける運動をしています。



【詳細】



2016年から始まり、元々はサッカー大会のみでの開催でしたが2018年より地元でお店を経営されている方たちと協力をして、マルシェエリア・ワークショップエリアを作り、イベントの規模を拡大しました。最高で1日に400人が来場するなど、2日間で合計800人を越す来場者の方に来ていただく事も出来ました。

2019年には、イベント自体を認知いてもらい、各種企業様達から協賛していただけるまでになり、子供たちの景品などに還元させてもらいサポートしていただいております。



【来場者数】

	(※2日間の合計)	(大会参加者)
2018年…	約350名	約250名
2019年…	約400名	約250名
2020年…	約800名	約140名
2021年…	約500名	約135名
2022年…	約1,000名	約250名

【出店数】

	(※2日間の合計)
2018年…	10店舗
2019年…	27店舗
2020年…	22店舗
2021年…	24店舗
2022年…	33店舗

第３回
かしま・ふきあげサッカーフェスティバル

～ブリュー鹿島 × 誠晴會　～

令和4年11月27日(日)に鹿島市陸上競技場で小学生を対象にかしま・ふきあげサッカーフェスティバルを開催致しました。

佐賀県内でもサッカーとの親和性が高い鹿島市において、地元の児童、及びその保護者に対し、サッカーの楽しさと奥深さを知ってもらい、スポーツによる子どもの健康増進と地域振興を目指すために実施場所である鹿島市を本拠地としてJリーグを目標に活動している「BrewKASHIMA」にフォーカスを当て「第3回かしま・ふきあげサッカーフェスティバル」を2部制で開催をしました。

第1部目では、ブリュー鹿島の選手・コーチ達によるサッカー教室を行いました。元U-16日本代表の砂田選手とU-20台湾代表の黃子銘という実績のある選手のデモンストレーションを交えながら解説・実践をして高い技術や知識を伝えていくサッカー教室を行いました。

サッカー教室終了後に、Brewkashimaの応援ソングを作成した、佐賀県太良出身のシンガーソングライターの「山口光貴」さんに出演して頂きトークショーを行い、ご自身の経験や曲に込めた思い、今後の地元(鹿島・太良近隣)についてお話ししていただきました。

第2部では、川副市を拠点に活動し同じ九州リーグに所属している「川副クラブ」に協力をしてもらい「BrewKASHIMA 対 川副クラブ」のエキシビジョンマッチを鹿島ケーブルテレビの生中継を行っての開催でした。

キックオフセレモニーでは、山口光貴さんによる国家独唱、ハーフタイムショーでは長崎県大村市のストリートダンスチームの、「Soul Sun」さんに出演してもらいBrewKASHIMAの応援ソングである“Over the rainbow”で踊りを披露してもらいました。

第一線で活躍している選手達の本気のプレーを間近で観戦してもらい、地元出身のタレント出演、チームの話、ダンス披露などバラエティ性を入れ込み、来場した子供から大人までが楽しめる内容のイベントを行いました。



病院・施設における地域との連携活動

病院・施設は、その地域に住む方々にとって欠かすことのできないものであり、地域と一体となって成り立つ事業であると考えています。たとえ民間であっても病院・施設は「地域の財産」と言える存在でなければなりません。特に過疎地域において病院は、その地域において中核的存在であり、医療・介護サービスだけでなく地域の雇用や経済への貢献は大きなものであると感じています。

そのような背景から、「病気になってから初めて行く病院」「介護が必要になってから初めて行く施設」ではなく、地域の方たちとのつながりを常に密にし「常日頃から地域の皆様に親しまれ、愛される病院・施設」になり、地域の皆様と一緒に良き地域社会を築いていくことが大切だと考えています。

以上のような私の考えを反映し、誠晴會では、地域の方々との連携活動が活発に行われるように、日頃より病院施設を開放したり、子供・スポーツ系といったイベントなどの活動に賛同・協賛を行ない地域の方々との距離を縮め日常にある病院・施設を目指しております。







ストリートダンスチーム「Soul Sun」のメンバー



サッカー教室後にブリュー鹿島の選手との交流

・名 称　かしま・ふきあげサッカーフェスティバル
・日 時：　11月27日　10時〜16時
・場 所：　鹿島市陸上競技場
・実施内容：
　1部：Brew KASHIMA選手によるサッカー教室
　2部：エキシビジョンマッチ　佐賀ダービーマッチ
・対 象：　小学生1〜6年生(サッカー教室)
・参加人数：　54名(サッカー教室)
　45名(エキシビジョンマッチ)
　32名(ダンスチーム)
　2 名(ゲスト：山口貴・Hiroya.T)
　400名弱(エキシビションマッチ来場者数)
・主 催：　かしま・ふきあげサッカーフェスティバル実行委員会
・協 賛：　ふきあげ納富病院、大塚製薬
・後 援：　鹿島市サッカー協会
・目 的

日々練習に励む小学生を対象に、標題の事業を実施しサッカーの楽しさと奥深さを更に感じてもらうことは当然のこと、第一線で活躍する選手の技術を目の前で見て体験することで、参加児童の向上心も養いスポーツによる子どもの健康増進と地域振興を目的とする。
さらに、佐賀県で活躍をしている社会人２チームの対決を当チームのスポンサー企業などを招待しセレモニーマッチとして行い各チームの認知拡大、ファン・サポータ獲得の機会とする。

「Brew KASHIMA」で検索
いいね・フォローよろしくお願いします

令和４年 12 月 15 日　わいわい&だより　冬 12 月号

Blaze Vol.15

わいわいクラブ&
十二月号（八～十二月編）


嬉野フェスティバル


潟を踏もうプロジェクト


いろはかるた大会


志田焼きの里


多良岳登山


アイス美味しい🍦


探検　ワクワク😆


川遊び🎣


林川信夫先生による画家教室


人生ゲーム in 祐徳稲荷神社


まち遊び


SDGs について考えよう


光と色と風のフェスティバル


お芋堀体験


スケボー教室🛹


スクラッチアート🎨


志田焼きの里

次号もお楽しみに～

写真：スタッフ一同
文：武部　壮馬

【令和4年のご挨拶】

もう12月、やっと12月…みなさまにとってはどのような1年でしたでしょうか。

寒さの中元気に遊び回る子どもたちの姿に、この1年での成長を感じます。保護者のみなさまには、多大なご理解とご協力を賜り子供たちを温かく見守っていただき誠にありがとうございます。いよいよ、今年も残りわずかとなり、年末年始の過ごし方について考え、風邪や感染症に気をつけて手洗いやうがいを徹底しながら、元気に年越しできるよう努めていきます。



【最近について】

作成者側の都合で発行期間が空いてしまってのご報告になり大変申し訳ありません。しかし、わいわいクラブ&では毎週のようにイベントを企画し実施しており、夏からの報告がありますので写真を見ながらたくさんみなさまにお伝えさせてもらいます。

12月ということで1年を振り返る時期になりました。コロナの影響も前年度程もなくたくさんの場所に遊びにいき多くの経験ができ少しずつ以前の生活に戻れた年でした。

子供たちは、その場面で「どうやったら面白く遊べるか」を自分たちで考え、実行し一生懸命になって遊んでおります。子供たちが主体になって生活していくことで男の子は体力がつき、女の子はお友達との付き合い方を覚えるなど、子供たち自身は何気なく過ごす日常でも常に成長をし、たくましく育っております。そんな子供たちと日頃一緒に生活している私たちにも気づきと学びを与えてもらっています。

今後もわいわいクラブ&では、多くの経験を子供たちにさせていければと思っております。本年は大変お世話になりました。また来年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



どうぞ良いお年をお迎えください。

稲盛和夫

稲盛和夫氏がお亡くなりになりました。お悔やみ申し上げます。追悼の意味をこめて、稲盛氏が医療界に伝えたかったメッセージをここに共有します。

「どうか自分の心を美しく磨き続けてください」

稲盛和夫氏が日本医学会総会で訴えたメッセージ

二千十五年六月三日（水）大西康之　日経ビジネスオンライン

私は医学の素人でありますが、今日は五十数年に及ぶ企業経営と八十三年の人生経験の中からいくつかのお話をさせていただきます。

医療とはヒポクラテスの時代から常に高い倫理を求められる分野であります。洋の東西を問わず、医学・医療に携わる人間には高度な倫理観が求められるのです。倫理とはすなわち、己の利益ではなく他人の利益を優先して考えることだと思います。

クローン技術などに見られるように、今や人類は神の技を手に入れ、それを自由に使い始めました。こうした技術は悪用することもできます。ですから、高度な技術を身に付けた人には正しい考え方、すなわち哲学を持ってもらい、利他の心で世のため人のために尽くしてもらわなければなりません。

では、正しい考え方とはなんでしょう。私はこれまで経営経験から一つの方程式にたどり着きました。人生の結果とは、その人が持つ思想・哲学と、熱意と、能力の掛け算だという方程式です。掛け算ですから、どれか一つがマイナスだと全体がマイナスになってしまいます。ですから、高い能力のある人が悪い哲学を持つと、能力があればあるほどマイナスが大きくなるのです。

悪い哲学とは、恨み、妬み、虚栄心などを指します。高い能力を持った人が大いなる熱意を持って仕事に取り組んでいたのに、魔が差してマイナスの哲学を持ってしまったがために没落していった例を私は何度も見てきました。

繰り返しになりますが、現代のバイオ技術などは神の領域に達しています。そこに不純な心、私心が入ると、周りが見えなくなってしまうかもしれません。そういう分野にかかわる人々には、常に人間として正しいことを貫く哲学、基本的な倫理観を持ってもらわねばならないのです。

それは理想論だとおっしゃるかもしれません。しかし世のため人のために尽くすという利他の心には実に強大なパワーが備わっています。

「動機善なりや私心なかりしか」と何度も自問

日本医学会総会（会場は京都国際会館）で行われた京セラの稲盛和夫名誉会長の講演には多数の医師が耳を傾けた

私が一九五五年に入社した松風工業という碍子の会社を辞め、一九五九年に京都セラミック株式会社（現京セラ）を設立したとき、二十七歳の私の所持金は一万二千円でした。これでは会社など作れませんが、支援者の方に三百万円を出資していただき一千万円を借り入れることができました。前の会社でともに働いていた七人の上司や部下がついてきてくれましたが、何の保証があったわけでもなくあったのは同志の心の絆だけでした。

我々は社会のためにという高邁な理想を掲げ、設立趣意書に血判を押しました。



JALの幹部にはリーダーの心の在り方を説きました。京セラとKDDIで私が導き出した経営哲学です。人生の目的とは、心を高めることにある。人間としてすべきことをやってほしい。そういう当たり前のことを何度も話しました。

「人間が自力でできることには限りがあります」

独自の管理会計システム（アメーバ経営）を導入したこともありますが、何よりJALの幹部・社員たちが自己犠牲をいとわないようになったことで、会社の業績はみるみる向上しました。JALが利益率十％の高収益企業に生まれ変わったのを見届け、私は二〇一三年三月にJALの取締役を退任しました。

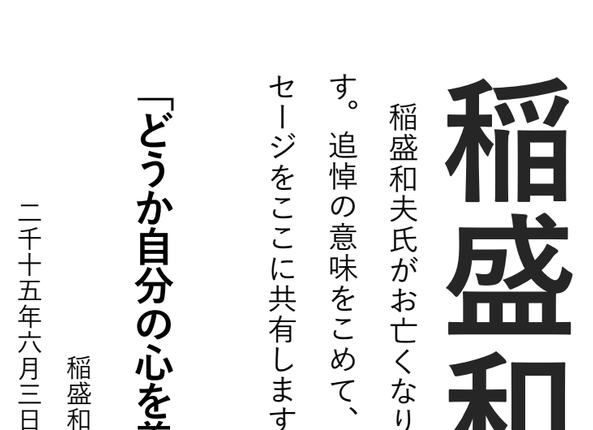
人間が自力でできることには限りがあります。しかし利己まみれの自分の心を美しく磨き、しっかり帆を張っておくと、他力の風を受け、人間の力を超えた力を得ることができます。医療にかかわる皆さんも、どうか自分の心を美しく磨き続けてください。

KDDIも四兆六千億円の会社になりました。当時、日本の通話料金は東京―大阪で三分間四百円と、米国などと比べ、とてつもなく高い状態でした。日本の通信料金を下げるという理想で新電電を立ち上げたわけです。

この頃の京セラはまだ京都の中堅企業で、それが巨人のNTTに挑むわけですから、世間からは「最初に脱落するだろう」と言われておりました。勝算があったわけではありません。通信料を下げたいという一心でした。

このとき私は五十二歳でしたが、「動機善なりや私心なかりしか」と何度も自分に問いかけました。会社設立の時、私は新会社の株を一株も持ちませんでした。私心があってはならないと考えたからです。

二〇一〇年に日本航空の会長をお引き受けするときも、同じことを考えました。ですから私は無報酬でこの仕事をやらせていただくことにしたのです。



稲盛和夫　Inamori Kazuo

出身：鹿児島県(1932年)。
学歴：鹿児島大学工学部卒業(1955年)
京都の碍子メーカーである松風工業に就職。
1959年：京都セラミック株式会社（現京セラ）を設立。
1984年：第二電電企画株式会社を設立。
DDI（第二電電）、KDD、IDOの合併によりKDDI株式会社を設立し、取締役名誉会長に就任。2001年6月より最高顧問となる。
1983年：経営塾「盛和塾」の塾長

誠晴會だより　12月冬号

令和4年12月15日発行・配布　編集人　医療法人誠晴會
限定発行　第三種郵便物未承認　発行人　合同広報委員会

医療法人誠晴會発行

〒849-1311
佐賀県鹿島市大字高津
電話（0954）63・1117

松浦印刷・印刷



ふきあげ納富病院に

医療脱毛プラン登場!!

1人ひとりの毛質や肌タイプに応じた脱毛が可能

Light Sheer 医療脱毛「クアトロ」



LIGHTSHEER
QUATTRO

こんなお悩みありませんか？



- ◆ワキや全身の体毛が濃い
- ◆敏感肌だからレーザー照射が不安
- ◆痛みに弱い
- ◆全身脱毛をスピーディーに叶えたい
- ◆V・I・Oのデリケートゾーンを脱毛したい
- ◆毎日のカミソリ処理が面倒
- ◆髭が濃く、剃っても青く見える

男性にもアプローチ可能！



- ☑ 日常的な日焼け対策を行っていない方
- ☑ ランニングや野外スポーツなどにより紫外線を浴びることの多い方
- ☑ くすみ・色素沈着がある部分の脱毛希望の方
- ☑ 太くて、濃い毛の方